

【スタートカリキュラムの見直し・改善】

本実践において、幼児期の学びを生かし、主体的・対話的で深い学びを展開するために特に大切にしたことは、学習活動を児童が「やってみたい！」と思えるめあての設定ができているか、また、「やってみたいことに挑戦したら、できることがふえたよ」という振り返りを行えるかの2点である。これらを大切にすることで、次の主体的な学びへと広がるのではないかと考え、明確なめあての設定と、振り返りの活動を重視した。

【実践・評価・改善】

生活科を中心とした夏休み前の国語科「おおきなかぶ」や「おむすびころりん」の音読発表会に向けた学習活動では、話のまとめや、言葉の響きなどに気を付けて音読することを目的とし「誰に発表したいか」という、相手を明確にすることで、音読に対する意欲の持続と技能の向上が見られた。さらに、子どもの創意工夫を生かしていくことで、よりよい取り組みになると気付いた。

【計画】

児童から「保育園で音読を発表したい」という意見があった。この主体的な思いを出発点として、「どんな発表にしたいか」「保育園で年長さんにどのような思いをもってもらいたいか」などについて、児童とともに話し合いながら活動のゴールを明確にした学習計画を立案した。本校には毎年10~13ほどの園から児童が入学しているが、学区内には幼児教育施設が存在しない。今年度は市バスを利用し、小学生が幼児教育施設を訪問する計画を立てた。校長・園長間及び担任間で連携を図り、新しい形の交流が可能となった。

1 バスで行ったよ！保育園！9月22日(月)

温かく迎えてくれて  
嬉しかったね！

年長さんが鼓笛演奏を披露して、お出迎えしてくれました。

言葉による  
伝え合い

自立心

1年生の、「年長さんに背負わせてあげたい。」という意見から、ランドセルを持参しました。

学区内に幼児教育施設が  
ない！

そうだ、バスで行こう！

アイスブレイク

「猛獣狩り」で、年長さんと1年生が  
まぜまぜグループに！まず自己紹介！  
そして、じゃんけんゲーム！



【音読発表:見せ方の工夫】

聞いている人がどの写真の説明か分かるように、  
説明している写真を高く上げています。

何度も練習して  
がんばったね！



【年長さんからのサプライズ！】

年長さんから1年生の一人一人に、メダルのプレゼントをいただきました。



心のこもったプレゼント  
嬉しかったね！

常に心掛けていることは、子どもたちへの言葉掛けです。当日も、「年長さんが楽しかったと言ってくれてうれしいね」「年長さんのために何度も練習して頑張ったからだね」と、子どもの思いを受け止め、実践に向けての過程を認めました。



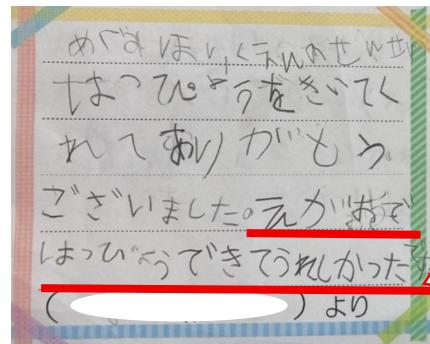
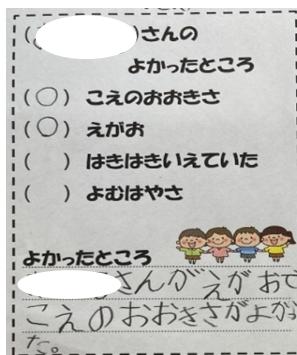
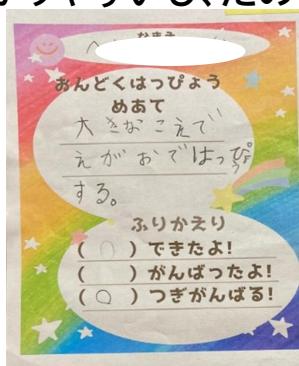
## 2 園訪問「めあて」の設定と「振り返り」

【1年1組のめあて】どんな発表にしたいのか、話し合って決めました！

「わかりやすいし、たのしいはっぴょうにしよう！」(A児の例)

そのために…

自分はどうにはっぴょうしたいかな？！



自信の  
高まり

活動後の振り返り①  
自己評価

活動後の振り返り②  
友達からの評価

活動後の振り返り③ お礼のお手紙  
自分ができるようになったことを自覚する。



子どもたちが、自分の成長に気付けるように、教材の工夫をしました。自己決定を大切にしてきたので、記録の方法を自分で選択できるようにしました。振り返り後は、年長さんにプレゼントを送りたいという思いを実現しました。

思考力の  
芽生え

## 3 実践を振り返って

### 【交流(☆園の先生)(○小学校教員)】

- ☆猛獣狩りがよかったです。自己紹介を、1年生がリードしてくれたので、年長さんも言いやすかったです。
- ☆場所が保育園だったが、小学校の先生による交流会の進行は、年長さんにとって小学校の雰囲気を感じることができるよい機会となつた。
- ☆「うみのかくれんぼ」という教材が、年長さんにとって興味深い内容だったので、よく聞くことができた。
- 1年生が年長さんをリードしている姿から、4月からの成長を感じた。

### 【授業(1年生)】

- ・1年生は、自分より年下の友達に発表するという明確な相手意識が思考を働かせるきっかけになり、必要感をもちながら、音読の技能面でも確かな成長が見られた。
- ・練習の過程では、児童から「もっと練習の回数を増やそう」「動画を撮って改善点を見付けよう」といった意見が出され、自ら学習方法を工夫する姿があった。
- ・生活科と国語科の複合単元としての視点で学習に取り組み、練習時間の確保に努めた。しかし、児童との話合いの中で練習に時間を要し、計画より大幅な時間を費やした。今後は、指導計画を見直した上で見通しをもつた学習を進めていく必要がある。

### 【体制づくり】

- ・これまでのつながりや連携を生かし、①依頼②打合せ③実践④振り返りまで、スムーズに行うことができた。改めて顔の見える関係性の大切さについて考えることができた。

## 4 まとめ

本実践は、児童の「やってみたい」という主体的な思いを出発点とし、学習計画や役割分担を児童とともに考えることで、意欲的な学びにつなげることができた。また、幼児教育施設との交流を通して、自ら学んだことを発信する喜びを味わうとともに、地域や異年齢との関わりの中で、相手の立場や状況を思いやる心が育った。

今後も、幼児教育施設での学びを礎とし、児童の発案を生かしながら学びを構成し、安心して挑戦できる環境を整えることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて取り組んでいきたい。